

それは夏の暑い日曜日の事だった。今も全国各地でホンダが主催しているライディングスクールに参加した時に聞かされた言葉「今日は午後から『ジムカーナ』をしますから……」

『ジムカーナ』(?)なんて事だ! 四輪のは知っていたけどバイクにもあるなんて! レッスンを受けに来たのに競争のような事をさせられるなんて。元来、運動オンチで体育の時間や運動会ではいい思い出はなく、まして人との競争で勝った事も記憶に残っていない人生。バイクも危ない乗り物とは思わず、やっと26歳になってから免許を取って乗り始め、普段は一人で行くミニツーリングだけ。人に勧められてスクールを受け始め間もないというのに、今日はジムカーナ! 神様お守り下さい。

目の前では真つ赤な忍者GPZ900Rがタイム測定に備えてパイロンの回りを回転している! その回転半径の小ささが異様だ。ハンドルはフルロックしているではないか。聞けば全国大会でクラス入賞した事のある人らしい。あんな人と走るのか、怖い。帰ろうか。

やがて不安と悲壮の影をひきずりながらスタート位置につく。悪魔のスターターに見送られてスタート。暴れるバイク、うる覚えのコース、人の視線を痛く感じながらコケない

ように無我夢中、やっとたり着いた絶望感のゴール。

と、ところが、タイムが良かったらしい。なんと赤の忍者よりも速く、ベストタイム! この人生初めて競技での1位! この時、空の上で女神が少し微笑んだ気がした。

【女神と共に】

女神の存在を信じ、自己流の練習が始まったのはそれからだった。真夜中に他の人に迷惑を掛けない場所を探し、港のコンテナ置場やカプセルしかない駐車場の片隅で、時には毎晩のように走った。走り方や整備の仕方何事も分からず、誰にも教えてもらえず走るの、転倒も多、時には自力で帰れない日もあった。でも、女神は見守ってくれていたのか、その後も連戦連勝が続き、地区戦だけでなく全国の頂点まで登り詰める事もできたのは、あの日の出会いがあったお陰でした。

【GRA設立】

たくさんの楽しい思い出をくれた大会、そのお世話になってきた大会の主催者が「今年をもって大会開催は終了します。」青天のへきれき。出会いから5年が経った年だった。でも、あまり悩む事なく決めた。「自分達の力だけで運営しよう」と。走る為の会場を借り、レッスンを開きジムカーナを体験してもらおう。

そして、持っているノウハウも残らず伝え、ライディングテクニックを向上してもらい、同じような仲間を増やそう。これが「GRA」(ジムカーナライダーズアソシエーション)の始まりだった。

お陰様でいろいろな人達の力添えにも恵まれ、順調に活動を続けていくが、このGRAにはジムカーナのイベントを開催する事だけではなく、実は他に大きな特徴がある。それはイベントに参加する方全員に運営のお手伝いを必ずしていただく「参加者全員スタッフ制度」というものだ。普通ならお客さま扱いになる人に運営を手伝ってもらい、全員で協力してイベントを作り上げている。

その目的は、全員で行う事から一体感を得る事と、イベント運営に対する理解と責任が生まれ、運営のノウハウが参加者に蓄積され、この活動を長続きさせられる事につなげられたら、という訳だ。その上、自分たちで行うこのスポーツと社会との関連まで考えられる人が、育っていく事も期待している。

現在、GRAではこの考えで様々な活動を行っており、登録会員数も約1,000人にもなっているが、最近の活動のハイライトに「ジムカーナグランプリ」がある。このジムカーナグランプリは、GRAと同様

な考えで活動している全国のジムカーナ団体と協力し合い、全国各地をあのF1のように転戦する初めてのシリーズ戦なのだ。

このような大きなイベントを開催すると多くのスタッフが必要となり、普通はそれが主催クラブの大きな負担となるが、そこは普段から運営スタッフとして活動している者が参加者の大半を占めている為、スムーズに運営ができていく。ここにも参加者全員スタッフ制度の大きなメリットが活かされているのだ。

【バイクと文化】

こうしてバイクを通じて遊び(スポーツ)ながら考えてきた事が一つ。それはバイクという趣味の楽しみ方には色々あるが、楽しみをより深く大きくする為にも、同じ考えを共有できる仲間を増やし、共に苦労と喜びを分かち合いたいものだ。そして、バイクの社会的な評価をより高める為に積極的な活動を行っていきたいものだと考えている。

どんな趣味の活動でさえ、それを行う個人個人の情熱と活動への理解と思慮が深く、社会的側面からの責任感が高ければ、やがては文化になると考えている。

さて、ジムカーナとバイクの文化を創造するこのスポーツ、この活動に、あなたも参加してみませんか。

出会いが僕にもたらしたこと

小林裕之 GRA代表